2026年11月13日

各位

会 社 名　株式会社ＲＳ　Ｔｅｃｈｎｏｌｏｇｉｅｓ
代表者名　代表取締役社長　方　永義
コード番号　3445　東証プライム市場
問合せ先　執行役員　経営企画部長　田渕　勝也
電　話　03-5709-7685

2026年12月期 第３四半期　決算説明　質疑応答集

当社は、本日開示した2026年12月期第３四半期決算について、想定されるご質問と当社の回答を以下のとおり開示いたします。

（ご参考：主なグループ会社一覧）

セグメント	社名(略称)	製造拠点	主な取扱商材
ウェーハ再生事業	RS テクノロジーズ	三本木工場	再生ウェーハ/販売ウェーハ
	RS 台湾	台南工場	
プライムウェーハ事業	GRITEK(グリテック)/山東GRITEK(サントングリテック)	北京工場/徳州工場	シリコン部材、FZ インゴット、5, 6, 8 インチプライムウェーハ
	ＳＧＲＳ(エスジーアールエス)(持分法適用関連会社)	徳州工場	12 インチプライムウェーハ
半導体関連装置･部材等事業	RSテクノロジーズ	なし(商社)	半導体製造検査装置、電子部品
	ユニオンエレクトロニクスソリューション	なし(商社)	半導体製造検査装置、電子部品
	ＤＧ(ディージー)テクノロジーズ	栗原工場、神栖工場	エッチング装置用消耗部品
	ＬＥ(エルイー)システム	浪江工場	VRFB 用電解液/エネルギー関連事業
	RS能源(ノウゲン)/RS攀枝花(パンジーファー)	攀枝花工場	VRFB 用電解液
	ＲＳＰＤＨ(アールエスピーディーエイチ)	惠州(ケイシュウ)工場	光ピックアップ/車載カメラモジュール

＜ウェーハ再生事業＞

Q１：３Q の再生ウェーハの単価動向、及び今後の単価改定の見通しについて

A１：３Q の再生ウェーハ単価は、前四半期比で数%上昇いたしました。
具体的な価格改定の見通しについては、お客様との取引に関わる内容であるため差し控えさせていただいておりますが、昨今の需給動向や各種コスト上昇を踏まえ、適正な価格水準に向けた取り組みを重点施策の一つとして位置付けております。再生ウェーハは短期契約を主としていることから段階的な単価改善を進めていく方針です。
加えて、高単価である先端品向けの受注拡大にも継続して取り組んでまいります。ただし、従来のボリュームゾーン製品も、工場運営の効率化や収益性の確保、顧客基盤維持の観点から重要であるため、市場環境やお客様の設備投資動向を踏まえながら、製品ミックスの最適化を進めてまいります。

Q２：ウェーハ再生事業の営業利益率が前年同期比で 1.3ppt 低下となった要因（決算説明資料 P5）

A２：増産設備投資に伴う減価償却費の増加が主な要因です。人件費や各種インフラコスト等も上昇しておりますが、販売数量の増加と高稼働継続により、現時点ではその影響を一定程度吸収できております。
※各セグメントの減価償却費実績は、年次開示のみとしており、通期決算短信のセグメント情報にてご確認いただけます。

Q３：ウェーハ再生事業の売上高前年同期比成長率が鈍化している要因（決算説明資料 P5）

A３：売上高の前年同期比成長率は、前年同期の 18.0%増に対し、当期は 7.1%増となっております。
要因としては、増産設備の稼働タイミング以外に、再生ウェーハと販売ウェーハの製品ミックス影響があげられます。前年同期は、お客様の新工場稼働に向けた販売ウェーハの一時的な需要増加がございました。一方、当期は世界的なウェーハ需給逼迫の影響もあり、販売ウェーハの売上高及び出荷枚数の構成比は前年同期比で低下いたしました。
この状況は当面継続する可能性があると認識しておりますが、こうした環境を背景に再生ウェーハの需要は高まっており、今後の市場環境に対応するため設備投資計画を着実に進める方針です。
※販売ウェーハについては決算説明資料 P29、四半期ごとの売上高構成比については決算短信セグメント情報をご参照ください。

Q４：ウェーハ再生事業の設備投資進捗、及び通期業績の見通しについて（決算説明資料 P13）

A４：３Q 終了時点で、台南工場の当期計画（月産３万枚増）は完了しております。
三本木第７工場は、11 月から順次稼働を開始しており、年末に月産４万枚体制となる予定です。生産能力は段階的に引き上げていく計画であり、業績へは順次反映される見込みです。
足元の需要環境は引き続き良好であり、通期では前年比で増収増益を見込んでおります。

＜プライムウェーハ事業＞

Q５：シリコン部材の３Q 状況と今後の見通しについて

A５：シリコン部材の販売量は、前年同期比で 100%超の増加、前四半期比でも 20%超の増加となりました。販売先では、主に韓国向けの販売が伸長いたしました。販売単価については、足元では安定した水準で推移いたしました。
今後の見通しについては、短期契約を中心としていることから四半期ごとの変動は想定されるものの、需要は増加基調にあると認識しており、これに対応するため計画的な設備投資を実施してまいります。

Q６：８インチウェーハの単価動向について（決算説明資料 P34）

A６：平均販売単価については、前年の急激な下落局面から足元では若干改善しておりますが、グローバルウェーハメーカーの価格動向と完全に一致する事業ではないと認識しております。
当社８インチウェーハの主力市場は中国であり、製品もパワーデバイス向けを中心としております。中でも、高耐圧・高電圧用途向けのヘビードープ製品に強みを有しており、中国国内向けのニッチな市場からの需要割合が高いことから、グローバルウェーハメーカーの価格動向の影響は限定的となります。

今後、Epi /FZ/MCZ ウェーハといった高付加価値製品の生産を強化することで、製品ミックスの改善による平均販売単価の向上にも取り組んでまいります。一方、前述（QA1）の再生ウェーハと同様に、従来のボリュームゾーン製品も工場運営の効率化等において重要であることから、市場環境を踏まえながら製品ミックスの最適化を進めてまいります。

Q７：中国のパワーデバイス向けシリコンウェーハの需要が、SiC や GaN に変わるリスクについて（決算説明資料 P36）

A７：昨今、新素材に関する研究開発や技術革新が活発に進められていることから、長期的にはそのような状況となる可能性はあると考えています。一方で、現在から中期的な視点では、シリコンはコスト面での優位性に加え、お客様であるデバイスメーカーにおいて関連設備が広く普及していることから、需要は引き続き堅調に成長すると見ています。
また、シリコンウェーハの中でも、パワーデバイス向けの Epi /FZ/MCZ ウェーハといった高付加価値製品は、従来の CZ ウェーハでは対応が難しかった高性能パワーデバイスの要求にも十分対応可能です。当社はこれまで培ってきた技術を活かし、高付加価値製品への取り組みを一層強化することで、パワーデバイス分野における中長期的な競争優位性の維持を図ってまいります。

Q８：GRITEK 再編を判断した理由（決算説明資料 P37、38）

A８：当社は、中国半導体市場を取り巻くビッグトレンドを成長機会と捉え、5・6・8 インチから 12 インチウェーハまでの一体運営体制を構築すべく、このたび GRITEK 再編を決定いたしました。
中国市場では、技術力に加え、コストカと迅速な意思決定が競争力向上への重要な要素となります。本再編により、設備、資金、人材、技術、顧客基盤などの経営資源を一体的に活用し、経営効率の向上を図ってまいります。
また、当期に新設した内モンゴル工場での単結晶（インゴット）生産や、M&A によりグループ化した安徽省 Epi ハウスの技術についても、グループ全体で有効活用できる環境が整いました。
以上のように、外部環境・内部環境の双方が整ったことから、本再編実行に最適なタイミングであると判断いたしました。

Q９：再編後も RS Technologies が GRITEK を連結維持する理由（決算説明資料 P37、38）

A９：現時点においては GRITEK を連結子会社として維持することにメリットがあると考えております。
GRITEK では目下、8 インチに加えて 12 インチウェーハの生産・品質の安定化を図り、中国市場における販売実績を積み上げていくことを目指しております。
さらにその先には、グローバル市場への展開も見据えております。ウェーハ総合メーカーとして世界市場に進出することは、当社の創業時からの大きなビジョンであり、その実現に向けては、ウェーハ再生事業を通じて世界中の半導体メーカーとのネットワークを構築してきた RS Technologies と GRITEK が、グループ一体となって事業を推進することに意義があると考えております。
また、日本と中国 2 か国の上場企業を有するグループであることは、新たな事業機会やパートナーシップの創出など、多くの戦略的メリットをもたらしております。
このように、GRITEK の価値は保有株式・資産の価値だけでは測れません。グループシナジーや将来の成長機会を総合的に勘案し、現時点では当社が連結を維持することを判断しております。

Q10：山東 GRITEK 及び SGRS の買収価格と、中期経営計画への影響（決算説明資料 P37）

A10：両社の企業価値については現在精査中です。再編完了時期は 2027 年中を見込んでおり、計画への影響を含め内容が確定次第、速やかに公表いたします。

Q11：SGRS の利益貢献時期について

A11：SGRS は 2026 年 9 月 11 日公表「連結子会社（プライムウェーハ事業）の組織再編に関するお知らせ」のとおり、2025 年度業績では営業利益で約 47 億円※、当期純利益で約 39 億円※の損失を計上いたしました。　（※1 元＝23.5 円レート換算）

損益分岐点到達の条件は、生産能力が月産 30 万枚程度に達し高い稼働率のもとでプライムウェーハとして安定的な出荷を実現することであると考えております。なお、月産 30 万枚体制の構築は 2029 年頃を想定しておりますが、設備投資の進捗や市場環境の変化等により、時期が前後する可能性がございます。

Q12：SGRS の 12 インチウェーハの生産・出荷枚数、単価動向について

A12：SGRS の状況につきましては、GRITEK 株価に影響を与える可能性があることから、現時点では具体的なコメントは差し控えさせていただいております。

＜半導体製造装置・部材等事業＞

Q13：10/9 公表「艾索精密部件（惠州）有限公司（RSPDH）の解散並びに 車載カメラモジュール事業への参入中止に関するお知らせ」に関して、中期経営計画への影響

A13：当期業績への影響はなく、年間売上高 100 億円超の見通しに変更はございません。
来期以降については、車載カメラモジュール事業への参入を一部計画に織り込んでいたことから、一定の影響が生じる可能性があります。2027 年以降の計画については、本件も踏まえ、2027 年 2 月に改めてご説明いたします。
なお、本件は経営資源を中核事業、及び成長戦略領域へ集中させ、中長期的な企業価値向上を図るための判断でございます。株主の皆様には、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。

以上